

令和4年度

徳島県読書バリアフリー推進協議会

別冊資料

資料①	「徳島県読書バリアフリー推進計画」策定までの経緯	p 1
資料②	国の法律（読書バリアフリー法）及び基本計画について	p 2
資料③	「徳島県読書バリアフリー推進計画」について	p 3
資料④	読書バリアフリーの取組状況について	p 6
資料⑤	県の「読書バリアフリー推進事業」について	p 8
資料⑥	令和4年度「読書バリアフリー推進事業」の進捗状況	p 9
資料⑦	その他関連事業について	p 12
資料⑧	視覚障がい者等の読書環境の整備状況について	p 13
資料⑨	今後の取組方針について	p 15

※別添資料

【文部科学省】「令和4年度 学校図書館における読書バリアフリーコンソーシアム公開シンポジウム」配布資料

令和5年2月3日
徳島県教育委員会生涯学習課

資料①

「徳島県読書バリアフリー推進計画」策定までの経緯

1 国の動き

- ①平成26年(2014) 国連の「障害者の権利に関する条約」批准
- ②平成28年(2016) 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」
(障害者差別解消法)
- ③平成30年(2018) 「盲人、視覚障害者その他の印刷物の判読に障害のある者が発行された著作物を利用する機会を促進するためのマラケシュ条約」締結承認
- ④平成30年(2018) 著作権法改正

【著作権法改正の概要】

- (1)視覚障がい者等のために書籍の音訳等を著作権者等の許諾なく行うことを認める。
- (2)対象を視覚障がい者のほか、発達障がい者、肢体不自由等により書籍を持たない者も含む。
- (3)音訳等を行える団体等として、障がい者施設、図書館等の公共施設の設置者、一定の条件を満たすボランティア団体等も加わる。
- (4)インターネットによる配信やデータのメール添付による送信を認める。

- ⑤令和元年(2019)6月 「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」
(読書バリアフリー法) 施行
- ⑥令和2年(2020)7月 「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」(読書バリアフリー基本計画) 策定

2 県の動き

①令和3年(2021)1月 「徳島県読書バリアフリー推進協議会」設置

(1)第1回協議会(令和3年1月25日(月))

- ・「徳島県読書バリアフリー推進協議会の設置」及び「視覚障がい者等の読書に関する現状と課題」について
- ・委員からの意見聴取及び協議

(2)第2回協議会(令和3年2月19日(金))

- ・「徳島県読書バリアフリー推進計画」骨子案について
- ・委員からの意見聴取及び協議

(3)第3回協議会(令和3年5月28日(金))

- ・「徳島県読書バリアフリー推進計画」骨子案に係るパブリックコメントの実施結果について
- ・「徳島県読書バリアフリー推進計画(案)」について

②令和3年(2021)7月 「徳島県読書バリアフリー推進計画」策定

資料②

国の法律（読書バリアフリー法）と基本計画について

1 目的

視覚障害者等の読書環境の整備を総合的かつ計画的に推進し、もって障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与することを目的とする。

2 「視覚障害者等」の定義について

視覚障害、発達障害、肢体不自由その他の障害により、書籍（雑誌、新聞その他の刊行物を含む）について、視覚による表現の認識が困難な者

3 計画策定についての規定

○国（法第7条）

「基本計画を定めなければならない。」

○地方公共団体（法第8条）

「基本計画を勘案して（中略）計画を定めるよう努めなければならない。」

4 地方公共団体における計画策定の留意点

- ①国計画は、当面の取組の方向性を示したもの。対象期間は令和2年度から令和6年度までとする。
- ②国においても、引き続き関係者による協議会を設置し、課題の解決に向けた取組を実施していく方針。実施にあたって国は必要な財源の確保に努める。
- ③対象者である視覚障害者等には、盲、弱視（ロービジョン）、盲ろう、発達障害、肢体不自由等、様々な特性があることを踏まえて取り組むこと。
- ④聴覚障害者、知的障害者、高齢者、外国人等、様々な状況により読書や図書館の利用に困難を伴う者への配慮も認識して取り組むこと。
- ⑤国、地方公共団体、公立図書館、社会福祉法人、教育機関、企業等の関係者相互の連携及び協働が重要。
- ⑥策定にあたっての各種会議の構成員には、視覚障害者等の読書環境の整備を支援する団体の関係者や視覚障害等当事者が含まれるよう努めること。
- ⑦当面の取組の方向性を示した計画を策定の上、策定後も実態把握の実施や定期的な評価、より具体的な目標や達成時期等についての検討をすること。
- ⑧市町村に対しても計画策定を働きかけること。
- ⑨支援施策についてHP・SNS・広報誌等による周知活動に努め、周知にあたってはテキストや点訳データの準備など、障害特性を考慮した対応をすること。

資料③

「徳島県読書バリアフリー推進計画」について

1 目的

視覚障がい等により、読書や図書館利用が困難な方々の読書環境を整備・充実させることによって、障がいの有無に関わらず、全ての県民が等しく文字・活字文化の恵沢を享受できる社会の実現を図ることを目的とする。

2 対象者

- (1) 読書や図書館利用に困難のある視覚障がい者、発達障がい者、知的障がい者、寝たきりや上肢に障がいがある等の理由により、書籍を持つことやページをめくることが難しい、あるいは眼球使用が困難である身体障がい者。
- (2) 障がい者手帳の所持の有無は問わない。

3 計画期間

令和3年度～令和7年度の5年間

4 基本的な施策の方向

- (1) アクセシブルな書籍等の充実及び製作人材の育成・確保 つくる・そろえる
(アクセシブルな＝利用しやすい)

- ・ 点字図書館、公立図書館、大学図書館、学校図書館における書籍の充実
- ・ 障がいの特性や程度に応じた、様々な分野の書籍等の充実
- ・ 相互貸借できるための連携体制の構築
- ・ 若年者の製作人材の育成（高校生の音訳・点訳講習会、製作体験）
- ・ 地域における製作人材の育成、継続的な活動の検討
- ・ 多様な関係者による効率的な製作体制の検討
- ・ 製作を行う者への製作手順の共有、効率化

- (2) アクセシブルな書籍等の入手及び利用のための支援 つかう

- ・ 「国立国会図書館視覚障がい者等用データ送信サービス」、「サピエ図書館」（視覚障がい者等が利用できるインターネット図書館）の利用促進
- ・ 一人一台端末を活用した、児童生徒のマルチメディアデイジー図書（音声、文字、画像で楽しめるデジタル図書）等の利用促進
- ・ 様々なバリアフリー図書や読書支援機器の貸出、体験機会の確保
- ・ 中途視覚障がい者等への読書支援機器の周知
- ・ 様々なバリアフリー図書の紹介
- ・ ICTスキルの習得支援、そのための人材育成及び公立図書館等職員への研修の実施

(3) 読書を支援する環境の充実と人材の養成

ささえる・ひろげる

- ・ 図書館等のバリアフリー化、障がい者サービスの充実
- ・ 点字図書館と公立図書館等とのネットワークの構築
- ・ 学校図書館を活用した読書支援の充実のため、司書教諭・学校司書及び図書館サポーターの配置促進
- ・ 読書や図書館利用が困難な児童生徒に対する公立図書館の利用方法の習得支援、そのための点字図書館・公立図書館・学校図書館の連携
- ・ 読書及び図書館利用を支援する職員への障がい者サービスに関する研修の実施、ピアサポートできる司書及び職員の育成及び環境整備
- ・ 「図書館サポーター養成講座」において、視覚障がい者等への読書支援に関する講座開設
- ・ 読書バリアフリーについての県民への理解促進

5 成果指標 (これまでの実績)

成果指標		R 2	R 3	R 4 (12月末現在)	R 7目標	
(1) つくる・そろえる	点字図書館のアクセシブルな書籍等〈タイトル数〉	所蔵数	21,834	22,017	22,158	22,834
		年間貸出数	7,175	6,313	4,044	7,200
	点字図書館のアクセシブルな書籍等のサピエ図書館への年間アップロード数		95	87	60	100
	県立図書館のデイジー図書・マルチメディアデイジー図書〈タイトル数〉	所蔵数	464	486	522	565
		年間貸出数	20	83	104	40
	県立図書館の音声読み上げ対応電子書籍〈タイトル数〉		333	388	543	433
	点訳・音訳奉仕員の年間養成者数		20	8	14	30
高校生の点訳・音訳講習会及び製作体験参加者数〈累計〉		—	17	53	100	
(2) つかう	サピエ会員（個人会員）登録者数		111	111	116	150
	点字図書館の利用登録者数		729	725	727	850
	点字図書館のアクセシブルな書籍等を利用するための端末機器の延べ貸出回数		8	11	14	50
(3) ささえる・ひろげる	公立図書館等へのバリアフリー図書セットの貸出件数〈累計〉		—	—	5	50
	図書館職員等への読書バリアフリー関連講座や研修会の受講者数〈累計〉 R4 公立図書館等職員研修会 16名 図書館サポーター養成講座 30名		—	59	105	150

※令和3年度は、新型コロナウイルス感染症及びサピエ図書館メンテナンスに係る休止期間の影響あり

資料④

読書バリアフリーの取組状況について

Ⅰ 令和3年度

	【国の動き】	【県の動き】
4月	○「読書バリアフリー啓発用リーフレット」各都道府県に配布	
7月		★「徳島県読書バリアフリー推進計画」策定 □「高校生のための音訳講習会」開催（ひろがる読書推進事業）
10月		★「読書バリアフリー推進事業」開始 ○貸出用デイジー図書再生機器「プレクストーク」等整備、貸出開始 □「図書館サポーター養成講座」 ・視覚障がい等のある児童生徒への読書支援の講座を追加（ひろがる読書推進事業）
11月		○「第1回公立図書館等職員研修会」 ・プレクストークの操作実習 ・サピエ図書館について(講演)
12月		○音訳図書製作体験開始（～1月）（城北高校放送部）
2月		○「第2回公立図書館等職員研修会」 ・県立図書館、徳島市立図書館の障がい者サービスについて(発表と意見交換) ・鳥取県立図書館の取組について(講演)
3月	○読書バリアフリーウェブサイト開設（学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアム）	

2 令和4年度

	【国の動き】	【県の動き】
4月		○各学校・公立図書館等へ「読書バリアフリーコンソーシアムのウェブサイト開設」について周知
7月		○「バリアフリー図書セット」の貸出開始
8月		<input type="checkbox"/> 「図書館サポーター養成講座」 ・視覚障がい等のある児童生徒への読書支援の講座を開催（ひろがる読書推進事業） <input type="checkbox"/> 「高校生のための音訳・点訳講習会」開催（ひろがる読書推進事業）
11月		○「第1回公立図書館等職員研修会」 ・サピエ図書館の利用方法(実習) ・国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスの利用方法（講演）
12月		○音訳図書製作体験開始（～2月） （鳴門高校放送部）
1月	○「学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアム」公開シンポジウム開催（オンライン）	○各学校、公立図書館等へ「読書バリアフリーコンソーシアム公開シンポジウム」の開催について案内
3月		○「第2回公立図書館等職員研修会」 ・読書サポート入門（講演） ・読書が困難な方々との意見交換 ○読書バリアフリー啓発ポスター作成

資料⑤

県の「読書バリアフリー推進事業」について

1 目的

「徳島県読書バリアフリー推進計画」における3つの基本的な施策の方向に基づき、視覚障がい、発達障がい、知的障がい、上肢障がい等により、活字による読書や図書館利用が困難な方々の読書環境を整備・充実させることによって、障がいの有無に関わらず、全ての県民が等しく文字・活字文化の恵沢を享受できる社会の実現に向け、関係機関と連携して事業に取り組む。

2 事業委託先

社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団 視聴覚障がい者支援センター

※厚労省補助事業活用

「地域生活支援促進事業（地域における読書バリアフリー体制強化事業）」

3 事業内容

(1) アクセシブルな書籍等の充実及び製作人材の育成・確保 つくる・そろえる

高等学校での音訳図書製作体験

音訳図書等の製作を担うボランティアの高齢化及び新規人材の育成が課題となっていることから、高等学校放送部等において、作成したデイジー図書を視覚障がい者等に利用していただくことを目途に、音訳図書の製作体験を実施し、若年者の製作人材育成を図る。

(2) アクセシブルな書籍等の入手及び利用のための支援 つかう

公立図書館等における読書支援機器・バリアフリー図書の利用促進

視覚障がい者等の活字による読書が困難な方々が、読書支援機器や様々なバリアフリー図書を利用して読書に親しむことができるよう、公立図書館等に「デイジー図書再生機器」及び「バリアフリー図書セット」の貸出体制を整備し、広く県民の皆様にご体験いただくことで、様々な障がいの方に利用いただけるよう取組を進める。

(3) 読書を支援する環境の充実と人材の養成 ささえる・ひろげる

公立図書館等職員研修

視覚障がい者等が身近な地域の図書館を利用しやすい環境づくりを図るため、公立図書館等職員を対象に、読書支援機器・端末機器の操作方法、障がい特性に応じた読書媒体や支援ツールの知識、サピエ図書館の利用方法等の、障がい者サービスの知識習得のための研修を行うとともに、点字図書館や公立図書館等の連携体制を構築する。

資料⑥

令和4年度「読書バリアフリー推進事業」の進捗状況

I 高等学校での音訳図書制作体験

※令和4年4月21日（木）13:00～ 高校放送部顧問会議（zoom）にて
「読書バリアフリー推進事業」の説明及び体験校（1校）の依頼

(1)内容

録音図書の制作に必要な知識と技術を学び、録音図書の制作を体験する。

(2)実施期間

令和4年12月から令和5年2月

平日14:00～16:00 2時間 全6回（全12時間）

(3)会場

徳島県立鳴門高等学校 放送室

徳島県立障がい者交流プラザ2階 視聴覚研修室等

(4)体験者

鳴門高校放送部員4名

(5)講師

視聴覚障がい者支援センター 平田 清美所長、伊澤 深雪支援員

(6)制作図書

芥川龍之介『蜜柑』（青空文庫）

1	令和4年12月19日（月）	録音図書について 制作時の注意点	鳴門高校
2	令和4年12月21日（水）	録音ソフトの操作方法	鳴門高校
3	令和4年12月26日（月）	録音作業①、校正作業	プラザ
4	令和4年12月27日（火）	録音作業②、修正作業	プラザ
5	令和5年1月6日（金）	修正作業、編集作業	プラザ
6	令和5年2月3日（金） (15:00～17:00)	修正作業、CD制作完了 利用者からの講評	鳴門高校



2 公立図書館等における読書支援機器・バリアフリー図書の利用促進

(1)内容

「バリアフリー図書セット」の整備・貸出
(1セット30タイトル程度のものを、5セット)

(2)図書セットの内容

絵本、小説、クイズ、図鑑、アニメ、実用書、教養書、映画等の様々なジャンルの図書を、次のいずれかの形態で提供

- ・デージー図書(デジタル録音図書)
- ・マルチメディアデージー図書(音声、文字、画像で楽しむデジタル録音図書)
- ・シネマデージー
- ・点字図書

※ブックリスト作成

(3)貸出対象

公立図書館、学校図書館、特別支援学校等の教育機関

(4)申込み

「バリアフリー図書セット」リーフレット裏面の申込用紙にて随時受付

(5)周知方法

- ・各学校、図書館へメール及び郵送にてリーフレット送付
- ・学校業務支援システムの掲示板、ホームページにて案内
- ・教育委員会発行の保護者向け広報誌「ふれあいひろば」2月号に掲載予定

(6)貸出実績

- ・学校5校
(東みよし町立加茂小学校、鳴門市第一小学校、阿南市立山口小学校、那賀町立相生小学校、北島町立北島中学校)
- ・「図書館サポーター養成講座」へ研修用として貸出



3 公立図書館等職員研修 年2回開催

①第1回研修会

(1)日 時 令和4年11月10日(木) 10:00～15:00

(2)場 所 徳島県立障がい者交流プラザ 3階 0A研修室

(3)内 容

〈午前〉実習「サピエ図書館の具体的利用法」(会場)

- ・サピエ図書館を活用した公立図書館等の障がい者サービス
- ・リクエストに応じた点字・録音資料の検索、ダウンロード等

〈午後〉講演「国立国会図書館の障害者図書館協力サービスについて」
(会場及びオンライン)

- ・視覚障害者等用データ送信サービス
- ・学術文献録音図書製作・提供等

講師 国立国会図書館 関西館 図書館協力課障害者図書館協力係
杉田 正幸氏

②第2回研修会(予定)

(1)日 時 令和5年3月2日(木) 10:00～15:00

(2)場 所 徳島県立21世紀館イベントホール

(3)内 容

〈午前〉講演「読書サポート入門講座(仮題)」

～読書バリアフリーを地域で進めるために～

講師 愛知教育大学特別支援教育講座 准教授 相羽 大輔氏

〈午後〉テーマ「読書バリアフリーの現状と課題(仮題)」

～視覚障がい者等読書や図書館利用が困難な方々の立場から～
事例発表及び意見交換

(ア)視覚に障がいのある方の読書について

発表者 徳島県立視覚支援学校 元教諭 藤本 篤子氏

(イ)発達障がいのある方の読書について

発表者 特定非営利活動法人オーティの会理事長 濱田 正子氏



資料⑦

その他関連事業について（ひろがる読書推進事業）

1 高校生のための音訳講習会

- (1)日 時 令和4年8月19日（金）14:00～16:30
- (2)場 所 あわぎんホール4階 会議室2・3
- (3)参 加 高校生9名
- (4)講 師 視聴覚障がい者支援センター 平田 清美氏、伊澤 深雪氏
- (5)内 容 ・デイジー図書について
・専用ソフトを使った録音体験など

〈生徒の感想より〉

- デイジー図書というものがあるとは知らなかったし、専用の機器があることも初めて知った。色々な方法で本の内容を目の不自由な方々に届けようとしている人がいたり、取組があったりすることを知って、自分にも何かできることはないかと思った。

2 高校生のための点訳講習会

- (1)日 時 令和4年8月23日（火）14:00～16:30
- (2)場 所 あわぎんホール4階 会議室2・3
- (3)参 加 高校生23名
- (4)講 師 視聴覚障がい者支援センター 三井 貴浩氏
補助員 視聴覚障がい者支援センター 西崎 千尋氏
- (5)内 容 点字の基礎、点訳のルール（書き表し方・分かち書き等）
点字盤を使った点字体験など

〈生徒の感想より〉

- 講習会に参加するまでは点訳・音訳のことや、製作がボランティアによって行われていることを知らなかったのも、ボランティアに興味を持った。

※県立図書館のバリアフリー図書も展示（L.L.ブック、布の絵本、大活字本、録音CD・テープ、デイジー図書、マルチメディアデイジー図書、点字図書）



資料⑧

視覚障がい者等の読書環境の整備状況について

- 全国の視覚障害者手帳保持者 約31万人(R3)
手帳の有無を問わず、視覚に障がいがある人(弱視、発達障がい等)
約75万人 (R3)

1 サピエ図書館※利用数 (R4.12現在)

※視覚障がい者等が利用できるインターネット図書館(2010～)

(1)個人会員 19,842人

(内、視覚障がい以外のB会員 676人)

(2)登録施設及び団体 458

(内、公共図書館255、大学図書館9、盲学校30)

★徳島県内でサピエに加入している施設及び団体 4カ所

視聴覚障がい者支援センター、徳島市立図書館、視覚支援学校、点訳燦の会

★徳島県の個人会員 114人 (点字図書館利用登録者数は725人)

※参考：徳島県内の身体障害者手帳交付数(H31)

(視覚障がい2,590 身体障がい者全体35,432)

2 サピエ図書館で利用可能な資料の数(R4.9現在)

(1)総目録数 約80万タイトル

※参考：国立国会図書館所蔵の活字本1,000万タイトル以上

(2)コンテンツ数 約37万5千

(内訳：点字データ248,149、音声デイジー113,468、テキストデイジー13,221、マルチメディアデイジー404)

★年会費4万円必要 (個人会員は無料)

3 国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービス(2014年～)利用数 (R4.9現在)

(1)データ送信承認館 221

(内訳：公共図書館137、大学図書館51、視覚障害者情報提供施設14、学校図書館(特別支援学校図書館含む)16、その他3)

(2)四国の承認館 4

鳴門教育大学附属図書館、香川県立図書館、高松市中央図書館、
高知県立図書館

(3)個人利用者(国立国会図書館に障害者登録している登録利用者)503人

5 国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスで利用可能な資料 の数(R4.11現在)

(1)書誌件数 約97万タイトル

(2)コンテンツ数 約3万7千

(内訳：点字データ2,459、音声デイジー32,513、マルチメディアデイジー
-767、テキストデイジー81、その他EPUB・プレーンテキスト等1,484

★無料で利用できる。

★マルチメディアデイジー図書をパソコンでダウンロードして、
一人一台端末(タブレット)に専用の再生アプリをインストールし、
データを移して、読むことに困難のある児童生徒に貸出可能。

【参考資料】

- 「第1回公立図書館等職員研修会」講師発表資料
(国立国会図書館関西館 杉田正幸氏)
- 「令和4年度学校図書館における読書バリアフリーコンソーシアム公開シン
ポジウム」配布資料
(全国視覚障害者情報提供施設協会 川崎弘氏)
(国立国会図書館関西館 本田麻衣子氏)

資料⑨

今後の取組方針について

1 令和5年度「読書バリアフリー推進事業」

- (1) 高等学校での音訳図書製作体験（継続）
- (2) 「高校生のための音訳・点訳講習会」（ひろがる読書推進事業より移行）
・南部、西部での開催も検討
- (3) バリアフリー図書セットの整備・貸出（継続・強化）
・マルチメディアデジタル図書をダウンロードしたタブレットの貸出
・中途視覚障がいや、視覚障がい以外の方々への読書支援機器の貸出
- (4) 公立図書館等職員研修（継続）

2 令和5年度に強化していきたい取組

- (1) 「サピエ図書館」や「国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービス」の利用促進（会員登録数を増やす）
- (2) 中途視覚障がいや、視覚障がい以外の発達障がい、知的障がい、上肢障がい等の方々への周知・啓発（福祉関係者や学校関係者との連携強化）
- (3) ICTスキル習得のための支援（徳島県立障がい者交流プラザとの連携）
- (4) 小中学校の児童生徒へのマルチメディアデジタル図書の利用促進（学校関係者への周知・啓発）
- (5) 地域における製作人材の育成、拠点づくり（市町村の社会福祉協議会や図書館関係者との連携）